

「教育と公共」研究部会（第30回）

日時：2021年11月12日（金）13:00～16:00

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：田嶋一・上野正道・浅井幸子・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
吉久知延所長・山口和人・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）藤井研究員：「教育における熟議（Deliberation）と公共に関する研究

— J. Bessant, Working with and thinking against Habermas を読む」

I 平成30・31年神奈川県青少年問題協議会「情報ネットワーク社会における青少年育成・支援～子ども・若者のコミュニケーションと育ちを考える～令和2年3月

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/26947/h30_31_houkokusyo.pdf の紹介
教育学の視点から見たインターネット空間における公共圏の構想は可能か？

II J. Bessant (2017) Working with and thinking against Habermas の紹介

論文の内容は Bessant の研究歴とハーバーマスの思想との関係を振り返ったもの

若者がデジタルコミュニティを作り、情報通信技術を用いて、公共圏とデモクラシーを活性化することへ著者は関心をもち研究

- ・若者の政治参加に関する研究
- ・デジタル世界から見る公共圏の問題

III 伊藤恭彦 (2019) 「ネット社会とグローバル公共圏の可能性」『思想』pp122-138 の紹介

Bessant とは異なる視点から行政や国家と対峙する一枚岩としての公共圏の困難を指摘

（2）浅井研究員：『『コモン・ワールドディング』（共通世界化）としての教育』

◆Common worlding Research、Common worlds methods

欧米の研究パラダイムの一つとして世界共通フレームワーク（common worlds framework）
Common worlds Research Collectiveに属する人々の方法論的アプローチ

◆Africa Taylor, 2013, Reconfiguring the Nature of Childhood, Routledgeの紹介

「共通の世界（common world）。ブルーノ・ラトゥールの言葉を借りたもの。自然と文化を結びつけることを意味している

◆ラトゥール『諸世界の戦争』（以文社、2020年）および『地球に降り立つ』

（新評論、2019年）の紹介

『諸世界の戦争』は9.11を話題にしている。「共通世界」は「文化」を超えてともに生きる人間を問題にしている。『地球に降り立つ』は気候変動を話題にしている。「共通世界」は「自然」と「文化」を分断しないやり方

・次回研究会 12月10日（金）13:00～